

インターバンクの声（2015 年 7 月 7 日）

欧州連合（EU）からの緊縮案の受け入れを否決したギリシャ国民投票を受けた週明けの欧州市場は、さすがにニューヨーク勢が参入して来るまではユーロが一方的に下落する展開となった。しかし、東京時間に既に発表されていたバルファキス・ギリシャ財務相の辞任表明が今後のギリシャと EU 側との交渉が好転するとの思惑や 1.10 ドルまでの下落による値頃感もあって、ニューヨークの昼頃には下落前の水準まで買い戻された。国民による緊縮案を拒絶する信認を得たことで、ツィプラス首相がより強硬な路線に舵を切ってくるとの予想もあるが、ドイツのメルケル首相に対して、7 日のユーロ圏緊急首脳会談で新たな再建策を提示すると約束したようだ。もっとも、その内容が意外に EU 側に歩み寄ったものなのか、いつも通りの再建策と名が付くような代物でないのかは、会談が始まるまで分かる由もない。アジア市場は今日も方向感が出難い相場になると思われるが、為替相場よりも大幅下落となった日経平均と終盤上げ幅を縮小した上海株の行方が注目されることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。